

中経

論壇

会長 美明日
海委 明
東委 日
協会 明
士委 日
計士 明
認会 日
公認 明
本公 明
日テ 明
工藤



のように利用を拡大すればよいが、また利用拡大に伴い留意すべき点が多からないという声も聞かれるため、本稿ではAI利用を検討しやすい業務とそれに伴う留意点について述べたい。

まずAI利用の拡大としては、AIが得意とする領域から検討するのがはじめやすいだろう。AIはデータの学習によりパターンに応じた高速処理を得意としている。例えば、グループ会社の財務分析や請求書を読み込んで仕訳を起票させる業務に利用すること化しつつあり、従来の単純業務よりも一歩進んだ活用を検討する会社が増加していると感じている。だが一方で、ど

経理業務におけるAIの活用

らも導入しやすいと考える。

次に、利用拡大に伴い留意すべき点について、会計監査に携わる立場から内部統制に言及したい。内部統制とは、会計数値の誤りなどを未然に防止する、もしくは仮に誤りが生じても適時に発見する仕組みのことであるが、AIについても開発段階の統制と導入後の統制を検討する必要がある。まず開発段階の統制としては、AIの作業結果の精度検証や、AIに学習させたデータの質(偏りが無いかや不適切なデータが含まれないか)や量(少なすぎないか)の管理が挙げられ

る。また、導入後の統制としては、AIの作業結果のレビューを十分な業務知識と経験を有する者が行うことが求められるが、レビューに求められる精度は業務の複雑性や重要度に依存することになる。

最後に、AI導入にあたって重要なのは、利用に関するガイドラインを策定することである。AI利用の目的、対象業務、セキュリティ上の禁止事項、そして前述の内部統制などを定める必要がある。さらに、問題が生じた際に責任の所在が曖昧にならないように、開発、利用に関する責任を誰が負うかについても定めておくことが重要である。これらの整備は事後になると業務の混乱が予想されるため、AIの本格導入前に整備を行い、また技術進歩が著しいため適宜見直し、更新することが求められる。

一歩進んだ活用で改革推進

万円を
青森県
船長伊
師歴45
たのは
1千万
る飲食
れすれ
くりと
。マグ
海峡で
長夢の
ごき方
や頭をよ

オーブン カレッジ

前回ご紹介した「アライ®(オルリスタット)」は、最近テレビCMでも目にする機会が増えてきた、脂肪の吸収を抑えるタイプのダイエット薬です。食事で摂った脂肪が体に取り込まれにくくなるため、「脂っこいものを食べても太りにくい」という働きがあり、ダイエットを継続したい人にとって大きな助けになります。また、日本では市販薬として購入できるため、生活に取り入れやすい点も利

発売1年で見えてきた効果と副作用

でも、「思った以上に落ちた」「停滞越えられた」など実感する声が多くです。一方で、気

太りにくくなる薬 「オルリスタット」

用者が増えている理由といえます。
発売から1年以上が経ち、実際に使った人の感想

園大学生生活科学部
学科教授
加藤 昌彦

スクが上がるため
困りたくない」と
から自然と脂質の
を控えるように
的に食生活の改善
つたという人も